

2020年6月24日 政策提言

新型コロナウイルス感染長期化に対峙する
札幌の文化芸術関係者の活動再開への道を探るアンケート調査

第1章 影響と損失

調査結果に基づく政策提言

関鎮京(北海道教育大学岩見沢校 芸術・スポーツビジネス専攻 芸術文化政策研究室 准教授)

小田井真美(AIR事業設計、さっぽろ天神山アートスタジオ AIRディレクター)

政策提言

- 1 活動再開に向けて多様な表現分野の関係者による「ネットワーク」を発足
 - 2 文化芸術活動のための「相談窓口・情報プラットフォーム」を設置
 - 3 文化施設への持続的な支援
 - 4 創造活動の奨励金等、クリエイションのための基盤を支援
 - 5 新たな手法への試みを支援
-



**活動再開に向けて
多様な表現分野の関係者による
「ネットワーク」を発足**

活動の再開に向けて多様な表現分野の関係者によるネットワークを発足

【アンケート結果】

- オンラインを活用した文化事業の支援要望は、1～6%（個人5%程度、団体1%）に止まっている。

札幌市文化芸術公演配信補助金「さっぽろアートライブ」の次の事業を考えるためには、現場の意見を聞く組織が必要である。行政はその組織と連携しながら文化芸術活動の課題を把握し、それに的確に対応した支援策を求める。

新型コロナウイルスが終息するまで、政策形成のために議論する場「ネットワーク組織」（*既存の円卓会議の活用可）を設置し、活動の再開に向けて、行政と現場が定期的に意見交換をおこなうとともに、現場の声を反映した政策実現をめざす。

なお、再開に向けて策定するガイドラインについて、施設間・事業者間の情報共有および札幌市の指導・指針提示は急務である。

＊「円卓会議」に関する条例


「札幌市文化芸術基本条例」第 10 条において、「市は、市民、芸術家等、文化芸術活動を行う団体等の自由な発想が文化芸術の振興に欠かせないものであることにかんがみ、市とこれらの者とが、文化芸術の振興に関し、互いに自由かつ率直に意見の交換を行うことができる仕組みの整備を図るものとする」と明記されている。

この仕組みとして「札幌文化芸術円卓会議」が設置され、平成 30 年度まで行われていた。

(注)多様な表現分野

アンケート質問票で使用した大分類 10 分野、55 の表現分野のすべてを意味する。

アンケート質問票「Q1」をご参照ください。



**文化芸術活動のための
「相談窓口・情報プラットフォーム」を
設置**

文化芸術活動のための 「相談窓口・情報プラットフォーム」を設置

【アンケート結果】

- 困っていることに関して、特に表現分野が「音楽、演劇、舞踊」の回答を合計すると、**「創作発表の意欲が湧かない」が71%**。
- 困ったこと、迷ったことが起こった時に、精神的あるいは物質的、またはその両面において援助してくれる個人や団体、組織などは**「ない」が53%**。

気兼ねなく相談ができるワンストップの「窓口」の設置が急務であり、文化芸術活動の現場を熟知した専門人材（著作権に詳しい弁護士、税理士、経営コンサルタント、心理カウンセラー等）を配置し、相談窓口の事例を支援事業に反映することを求める。

政策検討機関（上述のネットワーク組織）に連結するしくみの整備や、個々の表現分野においても芸術家の活動の悩みの受け皿として同業者ネットワークの構築を推進させ、政策検討機関に連結するしくみを整える。

【ご参考】 京都府文化芸術関係者支援相談窓口 <https://www.kyoto-artsconsortium.jp/inquiry/>
文化芸術創造都市横浜・臨時相談センター <https://covid19.yafjp.org/yes/>

「ご意見：個人」のうち該当する要望(抜粋)

- 落ち込んだ収入や経営を立て直すため知恵を提供してくれる、相談室、アドバイザリーサービス。
- どんな支援があるのか、どこを見たらわかるのか？もっとわかりやすく伝えて欲しいと思う。
- 文化芸術部門が相談出来る札幌市の対応先が有れば心強い。
- 色んなジャンルのアーティストが相談できるプラットフォームがあればいいなと思う。
- 具体的な補助金申請などまでいなくても、日常の業務で困ったことについて、気軽なレベルでの無料相談があると助かる。
- 道内市町村ごとの支援対応や相談窓口の提示。
- 今後パソコンなどの機器を使って演奏を配信していくことが考えられるが、音響機材など一から個人で準備するとなると金額や技術が追いつかないので、演奏者と技術者を結びつけるようなことができれば良いと思う。

3

文化施設への持続的な支援

文化施設への持続的な支援

【アンケート結果】

- 最も必要としている支援として、個人、団体・事業所ともに「**活動の再開や新規展開事業に向けた支援**」が上位である。また、7月まで中止・延期が続く場合、経営困難に陥る団体・事業所は**50%**を占める。

このような状況を改善するためには、単発的な支援ではなく、「新型コロナウイルス」が終息するまで継続的に活動ができる、**中長期視点の支援策**を求める。

特に、経営難から脱却する適切な対策が急務であるとともに再開に向けての取り組みが必要であるが、文化施設は、感染予防のため、客席数を大幅に減らすなど対策を講じて、再開することも予想される。しかし、現行の利用料金を支払うことになれば、利用者（劇団・音楽団体・ダンスカンパニー、映像や映画上映等）の**経営状況は益々厳しくなる**。

行政には文化施設（公立・民間を問わず）の**施設使用料の減免化**や、**補助化**することを求める。それによって利用団体の負担は軽減し、従って市民はコロナ前のチケット料金で気軽に文化芸術を楽しむことができる。

【ご参考】兵庫県 芸術文化公演の再開に向けた緊急支援

感染拡大予防ガイドラインを遵守して芸術文化公演等を実施する場合、施設使用料 1/2 相当額を支援

4

**創造活動の奨励金等、
クリエイションのための
基盤を支援**

創造活動の奨励金等、クリエイションのための基盤を支援

【アンケート結果】

- 5月までの延期・中止による収入の損失の平均額は、**個人が62万円、団体・事業所が586万円**(1円以上の損失があった場合)である。

すでに大きな損失を被っている状況であるが、**今後中止・延期が続くと予想し、経済的理由により活動が中断されないように、「持続化給付金」とは異なる文化芸術活動のための奨励金等**の札幌独自の支援策が必要である。創作アイデアの出現、リサーチ活動を含むクリエイション段階の活動基盤そのものを支援することを求める。

対象となる活動(例)

表現部門(美術家、音楽家、演出家、俳優、舞踊家など)

マネジメント・技術部門(企画制作者、舞台監督、照明・音響・映像等技術スタッフ、キュレーターなど)

「ご意見：個人」のうち該当する要望(抜粋)

- 副業をどう進めるべきか? どうスタートすべきか? などのレクチャーがあると参加したい。
- 団体に対してではなく、個人事業主として、個人に対する資金援助。10万円給付では生活すら困難。
- 材料費・生活費の支援金が欲しい。

【ご参考】京都市新型コロナウイルス感染症の影響に伴う京都市文化芸術活動緊急奨励金 <https://www.city.kyoto.lg.jp/bunshi/page/0000268998.html>

5

新たな手法への試みを支援

新たな手法への試みを支援

【アンケート結果】

- 現在困っていることは何ですか？の質問に対し、「**創作発表の機会が失われた**」が**65%**で最も多い。

新型コロナウイルス感染拡大によって生じた大きな社会変革は、文化芸術活動に多面的な創意工夫を迫っている。また同時に、多様性豊かな地域社会を目指す自治体の政策や手法なども変革に応じて柔軟に変化する機会となる。3密を防ぐ等の感染防止対策を講じ、市民等が安心して文化芸術を享受できる新しい環境での文化芸術活動の技術や場所、機会の開発・整備を求める。

支援事業内容(例)

- ・ 既存施設の遊休空間、敷地、公園、公共空間等の屋外環境を利用するための新規環境整備(施設利用に関する柔軟な対応)支援
- ・ 創造活動において未知なる手法を探求するための研究や、世界の来るべき状況に呼応する表現分野の開拓等に対して支援
- ・ オンラインでの活動を行うための技術及び、環境整備に対する支援

【ご参考】東京都杉並区新しい芸術鑑賞様式助成金 <https://www.city.suginami.tokyo.jp/news/r0206/1060351.html>

ご協力いただいた方々

新型コロナウイルス感染長期化に対峙する

札幌の文化芸術関係者の活動再開への道を探るアンケート調査

第1章 影響と損失

[札幌アンケートワーキンググループ] (A-Z、敬称略)

江川 佳郎(一般社団法人北海道二期会)

羊屋 白玉(演出家・劇作家・「指輪ホテル」芸術監督・札幌市ホームレス相談支援センター 職員)

細川 麻沙美

森嶋 拓(北海道コンテンポラリーダンス普及委員会)

中村 一典(ト・オン・カフェ)

中津 邦仁(オペラ演出家)

奥山 健恵(札幌舞踊会)

尾崎 要(アクトコール株式会社)

斎藤 ちず(NPO法人コンカリーニョ)

斎藤 歩(公益財団法人北海道演劇財団)

仙庭 弘晶(ダンススタジオマインド/舞人)

竹平 篤史(テイクエーエンターテイメント株式会社、サッポロ・シティ・ジャズ実行委員会 プログラムディレクター)

漆 崇博(一般社団法人AISプランニング)

HAUS ～北海道のアーティストの労働環境について考える会

[提言書作成ワーキンググループ] (A-Z、敬称略)

羊屋 白玉(演出家・劇作家・「指輪ホテル」芸術監督・札幌市ホームレス相談支援センター 職員)

森嶋 拓(北海道コンテンポラリーダンス普及委員会)

中津 邦仁(オペラ演出家)

斎藤 歩(公益財団法人北海道演劇財団)

櫻井 ヒロ(ダンサー、振付家、micelle主宰)

漆 崇博(一般社団法人AISプランニング)

山本 雄基(画家、naebono art studio運営メンバー)

デザイン: 真砂雅喜(アーティスト)

[速報版作成の若手支援チーム] (A-Z、敬称略)

石島 耕平(さっぽろ天神山アートスタジオ)

平山 紗也華(北海道教育大学岩見沢校 芸術文化政策研究室)

堀内 まゆみ(北海道大学大学院 教育学院 身体教育論講座)

佐久間 泉真(国際基督教大学 教養学部 公共政策メジャー、「札幌演劇情報サイト d-SAP」運営者)

[アンケート調査にご協力くださった多くの皆様]

個人 938件

団体・事業所 164件

多くの方々に支えていただきました。心から感謝の意を表します。